

院内ラダー到達目標

レベル	レベルⅠ		レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ		主任	部長
	I-1	I-2			Ⅳ-1	Ⅳ-2		
臨床能力段階	職場の指導や教育を受けながら看護実践を行うことができるレベル		所属の臨床場面において看護実践が1人でできるレベル	優秀な看護実践に加え、組織の役割を実践できるレベル	所属の臨床場面においては卓越した看護実践を実施し、組織的にも広範囲な役割遂行ができるレベル			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 組織の役割を理解し、組織の一員としての役割、責任を認識できる。 一人での看護実践を行うことができる。 指導や教育のもとで、基本的な看護を安全に実施できる。 指導を受けることにより、自己の課題がわかる。 		<ol style="list-style-type: none"> 根拠に基づいた看護を安全に1人で実施できる。 後輩の指導をするための準備ができる。 組織が示す基準に沿った後輩の指導ができる。 小集団のリーダー、院内の委員会の一員としての役割や業務を認識し、遂行できる。 自己の学習課題に向けた学習活動ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 専門的な看護活動が実施できる。 チーム内のリーダーとしての役割や業務を認識し遂行できる。 組織における委員の役割、責務を認識し、遂行できる。 自己の学習課題に向けた活動を展開できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 専門的な看護活動を認識でき、かつ、他者のモデルを示すことができる。 論理的かつ実践的知識を統合させた看護実践ができる。 組織が求めるリーダーシップを発揮することができる。 所属を越えてリーダーシップを発揮できる。 自己の学習課題に積極的に取り組む、指導的役割を果敢とできる。 院内の教育計画に沿った活動、研究活動を主体的にできる。 	<ol style="list-style-type: none"> 師長の情状、不在時には師長の職務の代行ができる。 師長とスタッフのパイプ役となることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 各部署の責任者として、病棟の理念、看護の理念に沿った方針を具体的に指導に具体化できる。 看護ケアの管理者として、スタッフの教育や支援を行い、そのための組織づくりができる。 看護の視点、経営の視点双方から管理ができる。 	
看護倫理	<ol style="list-style-type: none"> 常に患者の生命、人格、人権を尊重することを判断行動の基本とする。 患者の国籍、人種、民族、年齢、性別、社会的地位、経済的地位などにとらわれず、平等に対応する。 患者の尊厳を守ることができる。 様々な状況のある条件下で看護をする時、職業、工夫、努力によって可能な限りよい看護を提供する。 自己の看護において、判断および実施した看護については個人としての責任をもち、 看護職の行動は保健師助産師看護師法と精神保健福祉法に基づきものであることを理解し、実践する。 		<ol style="list-style-type: none"> 日常的に行っている業務、看護を倫理的に考えたいことができる。 患者に対して、自己決定を尊重した対応ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 倫理に関するカンファレンスで自分の意見を根拠に基づいて述べるができる。 日常的に行っている業務、看護を倫理的に評価できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 倫理的配慮に基づく看護実践ができる。 倫理カンファレンスの進行が出来る。 カンファレンスで発言出来る。 	<ol style="list-style-type: none"> 倫理的配慮に基づく看護実践の評価ができる。 倫理的配慮に基づく看護実践の管理ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 倫理的配慮に基づく看護実践の管理ができる。 	
施設	<ol style="list-style-type: none"> 服装・履服・態度は組織の規程に沿っている。 上司からの指示命令は的確に実行する。 組織での手帳を管理する。 組織内のルールを守る。 報告・連絡・相談ができる。 自己責任の姿勢を堅持する。 職場内の整理、整頓ができる。 病院の備品を大切に使用できる。 		<ol style="list-style-type: none"> 服装・履服・態度は組織の規程に沿っている。 上司からの指示命令は的確に実行する。 組織での手帳を管理する。 組織内のルールを守る。 報告・連絡・相談ができる。 自己責任の姿勢を堅持する。 職場内の整理、整頓ができる。 病院の備品を大切に使用できる。 後輩のモデルになることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 服装・履服・態度は組織の規程に沿っている。 上司からの指示命令は的確に実行する。 報告・連絡・相談ができる。 職場内の整理、整頓ができる。 病院の備品を大切に使用できる。 後輩のモデルになることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 上司からの指示命令は的確に実行する。 除日内なく仕事ができる。 病院の備品を大切に使用できる。 態度について後輩の指導が出来る。 			
看護サービスの実践能力	<ol style="list-style-type: none"> 看護に必要な情報を集めることができる。 情報の中から、患者にとって効果的、非効果的なものを判別できる。 指導を受けるが、受け持患者の看護計画を立案、調整できる。 看護の進捗を把握し、評価できる。 実施したと、わからないこと、問題が生じた時はリーダーに報告できる。 患者からの指示を受けられることができる。 1日の業務の流れを把握して時間の調整ができる。 基本的看護技術を用いながら、院内マニュアルに沿った看護技術の提供、業務ができる。 主な疾患の観察項目がわかる。 観察したことを報告できる。 急変時の観察事項がわかる。 急変時に対応を求めることができる。 緊急処置の準備ができる。 緊急処置の流れがわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 看護に必要な情報が収集できる。 情報の中から、患者にとって効果的、非効果的なものを判別できる。 指導を受けるが、受け持患者の看護計画を立案、調整できる。 看護の進捗を把握し、評価できる。 実施したと、わからないこと、問題が生じた時はリーダーに報告できる。 患者からの指示を受けられることができる。 1日の業務の流れを把握して時間の調整ができる。 基本的看護技術を用いながら、院内マニュアルに沿った看護技術の提供、業務ができる。 主な疾患の観察項目がわかる。 観察したことを報告できる。 急変時の観察事項がわかる。 急変時に対応を求めることができる。 緊急処置の準備ができる。 緊急処置の流れがわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 看護に基づいた看護実践ができる。 看護の個別性にあつた看護計画の立案・評価ができる。 看護の進捗を把握し、評価できる。 問題意識をもつて業務、看護ができる。気づきは先輩看護職に相談できる。 業務の優先順位を考慮して行動ができる。 患者からの指示を受けられることができる。 1日の業務の流れを把握して時間の調整ができる。 基本的看護技術を用いながら、院内マニュアルに沿った看護技術の提供、業務ができる。 主な疾患の観察項目がわかる。 観察したことを報告できる。 急変時の観察事項がわかる。 急変時に対応を求めることができる。 緊急処置の準備ができる。 緊急処置の流れがわかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 看護計画の評価、修正が適切にできる。 後輩の看護計画の指導ができる。 患者の全体像を把握し、個別性のある看護を提供できる。 予見していないことが発生した時に、優先順位を判断した看護ができる。 部署内の治療メニューにそって適切な看護技術を提供できる。 	<ol style="list-style-type: none"> チーム内、部署内の看護について評価、修正ができる。 あらゆる場面で実践した看護技術を提供できる。 看護の進捗を把握し、評価できる。 緊急処置に適切に対応できる。 記録の訂正ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> どのような状況にも、患者の状況を正確に把握し、個々の状態に応じた看護実践の指導ができる。 広い視野で状況を判断し、適切な看護できるように指導援助する。 		
人間関係能力	<ol style="list-style-type: none"> 自ら挨拶ができる。 患者、家族に自己紹介できる。 組織の役割をマニュアルに沿って対応できる。(電話、直接) 部署内で相談、報告、連絡ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 自己の傾向を知り、患者とのコミュニケーションをとることができる。 他部門への報告、連絡、他部門からの連絡事項の報告ができる。 自己の傾向がわかり、患者・家族とのコミュニケーションがとれる。 他部門とのコミュニケーションがとれる。 患者の心情を理解しようとする。 	<ol style="list-style-type: none"> 後輩のモデルとなる進捗ができる。 患者・家族と安定した関係をもつことができる。 自己の傾向がわかり、患者・家族とのコミュニケーションがとれる。 他部門とのコミュニケーションがとれる。 患者の心情を理解しようとする。 	<ol style="list-style-type: none"> 患者・家族の状況に応じた対応ができる。 他部署の立場を尊重し、意見交換ができる。 自分の関わりを見直すことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 部署内、チーム内、患者・家族との関係が円滑にいくように調整できる。 他部署との関係が円滑にいくように調整できる。 相手の考えを尊重し、自分の考えを述べることができる。 患者・家族と適切な距離をもち患者・家族の自己決定を支援することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 個々のスタッフに心を寄せ、病院、病棟の方針に沿って協力できるチーム作りができる。 職員間の良好な人間関係の調査ができる。 看護部、他部署との調査ができる。 		
看護管理	<ol style="list-style-type: none"> チーム内のメンバーの役割ができる。 業務開始時に業務開始ができるように時間管理できる。 組織の教育計画に沿って研修に参加できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 勤務時間内に業務が終了できるように時間管理ができる。 業務開始時に業務開始ができるように時間管理できる。 組織の教育計画、企画する行事に積極的に参加できる。 チーム内の活動に参加、協力できる。 組織内の役割を理解し行動できる。 カンファレンスで自分の意見を言うことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 夜勤のリーダーができる。 業務時間内に業務が終了できるようにチーム内の役割を把握し、調整できる。 上司、他部署との相談、連絡、報告を確実に行うことができる。 チーム内の活動に自発的に参加し、他チームの活動にも協力できる。 組織に求められるプリセプターが実施できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 日々のリーダー業務ができる。 時間内に業務が終了できるようにチーム内の役割を把握し、調整できる。 上司、他部署との相談、連絡、報告を確実に行うことができる。 チーム内の業務量を考慮して、チームメンバー割り振りができる。 カンファレンスの進行ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> チームリーダーの役割を担うことができる。 組織の目標(部署、チーム、個人)が達成されるように業務の調整ができる。 メンバーの教育、指導を確実にチームリーダーと協力できるように調整できる。 カンファレンスでスタッフの意見を引出す、まとめることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> チームリーダーとして、1年間を通してリーダーシップをとることができる。 チーム目標をメンバーと立案、実施、評価できる。 他チームに協力できるように調整できる。 個々のスタッフの能力が発揮できるように、業務分組ができる。 個々のスタッフの能力が発揮できるように、1日の業務分組ができる。 組織の目標を達成できるようにメンバーの指導ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 個々のスタッフの実践能力、院内、病棟での役割遂行能力などを適切に評価することができる。 個々のスタッフの能力、経験能力に応じた指導ができる。 部署の安全、看護力などを考慮した勤務体制作成し、計画に沿って、主体的に業務が遂行できるように指導することができる。 看護実践、看護評価を通して、看護の指導ができる。 部署での伝達事項などの周知徹底を図れるように工夫ができる。 	
安全	<ol style="list-style-type: none"> 医療安全対策ガイドラインを理解できる。 感染対策、院内感染対策を理解できる。 院内感染対策ガイドラインに沿ってスタンダードプリコーションが実施できる。 業務時に、各マニュアルを参照して行動できる。 発生時、不慮を区別して行動できる。 消毒、滅菌、医療廃棄物の処理などマニュアルに沿って行動できる。 指導を受けながらインシデントレポートを書くことができる。 CVPPPの概要がわかる。 暴力発生時、助言を受け適切な行動が取れる。 指導の下に身体拘束が確実に実施できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 業務にマニュアルを活用できる。 感染対策ガイドラインに沿ってスタンダードプリコーションが確実に実施できる。 院内感染対策ガイドラインに沿ってスタンダードプリコーションが実施できる。 業務時に、各マニュアルを参照して行動できる。 発生時、不慮を区別して行動できる。 消毒、滅菌、医療廃棄物の処理などマニュアルに沿って行動できる。 指導を受けながらインシデントレポートを書くことができる。 CVPPPの概要がわかる。 暴力発生時、助言を受け適切な行動が取れる。 指導の下に身体拘束が確実に実施できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 病棟内で発生した事故時、院内マニュアルに沿って対応ができる。 発生時、不慮を区別して行動できる。 インシデント時に対応を率先して行い、スタッフに指示ができる。 感染対策ガイドラインに沿ってスタンダードプリコーションが実施できる。 CVPPPの研修を受け身体介入技術が活用できる。 医療安全、院内感染が提示している内容をスタッフに指導できる。 スタンダードプリコーションについて、レベルⅠまでの看護職に対して、適切な指導ができる。 身体拘束技術チェックが行える。 	<ol style="list-style-type: none"> マニュアルを活用し、活用できない点、修正した方がないかを把握できる。 発生時、不慮を区別して行動できる。 インシデント時に対応を率先して行い、スタッフに指示ができる。 感染対策ガイドラインに沿ってスタンダードプリコーションが実施できる。 CVPPPの研修を受け身体介入技術が活用できる。 医療安全、院内感染が提示している内容をスタッフに指導できる。 スタンダードプリコーションについて、レベルⅠまでの看護職に対して、適切な指導ができる。 身体拘束技術チェックが行える。 	<ol style="list-style-type: none"> 災害時、適切な判断をし対応できる。 発生時、適切な判断をし対応できる。 発生時、適切な判断をし対応できる。 発生時、適切な判断をし対応できる。 発生時、適切な判断をし対応できる。 発生時、適切な判断をし対応できる。 発生時、適切な判断をし対応できる。 発生時、適切な判断をし対応できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 安全な環境を確保するために部署内の環境について日々スタッフの指導ができる。 安全な環境を確保するために他部署との連絡調整ができる。 		
教育・研究	<ol style="list-style-type: none"> 院内で企画されたレベルⅠの研修を終了できる。 院内の医療安全研修、感染対策研修に参加できる。 院内の看護職員委員会に参加できる。 	<ol style="list-style-type: none"> ケーススタディを教育的、計画的に取り組むことができる。 ケーススタディをまとめる、発表することができる。 院内研修に自発的に参加できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 院内、院外のプリセプター研修に参加できる。 クリニカルラーの研修に自発的に参加できる。 組織が企画した研修に自発的に参加できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 看護職として専門性を高めるために、自分の方向性を考えた自己啓発ができる。 組織の企画した教育プログラムに積極的に参加できる。 看護職が企画した研修に自発的に参加、協力できる。 看護学生の学習指導ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 所属、組織の教育に関わることができる。 自己開発のために努力できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 所属、組織の教育に自発的に関わることを目指すことができる。 自己開発のために努力できる。 看護研究の指導ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 新採用者、部署異動者がスムーズに業務に慣れるように援助ができる。 日々の業務のあらゆる機会を捉えて、機会を教育する。 自己研鑽に努め、スタッフにも積極的に勉強会、研修会への参加を推進する。 看護研究の支援ができる。 実習生の学習課題が達成されるように指導者に助言する。 	
自主研修	<p>精神看護学 精神リハビリテーションⅠ</p> <p>精神保健福祉論 リダーシップⅠ</p>	<p>レベルⅠ-1研修 入職研修・看護技術講習 フォローアップ研修</p>	<p>レベルⅡ-1研修 ケーススタディ レベルⅡ-2研修 プリセプター研修</p>	<p>レベルⅢ-1研修 レベルⅢ-2研修</p>	<p>レベルⅣ-1研修 レベルⅣ-2研修</p>	<p>レベルⅣ-1研修 レベルⅣ-2研修</p>	<p>レベルⅣ-1研修 レベルⅣ-2研修</p>	<p>レベルⅣ-1研修 レベルⅣ-2研修</p>
	<p>精神看護学 精神リハビリテーションⅠ</p> <p>精神保健福祉論 リダーシップⅠ</p>		<p>精神リハビリテーションⅡ 人間関係論 看護倫理 精神保健福祉Ⅰ 看護研究Ⅱ リダーシップⅡ(プリセプター)</p>	<p>精神保健福祉Ⅱ 家族システム論 教育Ⅰ リダーシップⅢ(マネジメント)</p>	<p>教育Ⅱ リダーシップⅣ(看護管理)</p>			